

△人並に上つた感想もありませぬ
たゞ、無上の光榮さといふこと
無事奉迎送が済んでよかつたこ
いふこと。今後吾等全従業員は
一層親親和親努力して、宮殿下

内郷村報の
六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總親和親努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ

皇太子殿下の御降誕を祝し奉りて
民惠
村つ内ふれをまはして御旗たてぬ日嗣の皇子のあれまし、朝
あれましぬあなれましぬ國つ内仰ぎ待ちたるうづの日の皇子
東久邇宮殿下を迎へ奉りて
かしこさに涙こぼしぬ御言葉いたくも侍りしものも
かしこしや地下千尺におりたれ働くまなみそなはすまは

文部大臣は 素人大工の棟梁なり

大内民惠

一年の計は元旦にあるを以て、帝國將來の爲に新年劈頭に際し、思ひ切つて文部當局を始め、一般教育に關係關心を有する人々に向つて、我主張を提言する事とした。舊臘

東 京や長崎に、教育上忌はしき問題を惹起したるに鑑み、今更の如く徹底的に教育制度を、改革せねばならぬ事を、繰返され出した。随分立案者も多いが、何れも現在學校でやつて居る仕事を、教育であるといふ前提を出発点として居る論議なるが故に、相變らず確乎たる方針が立たない。又例の

政黨などでは、何れも申合せた様に、其施政方針の中には、必ず教育改革の之の空手形に過ぎぬ事は、既往の實際に徴して明かな次第である。それから教育の大本山である。文部省はどうかであるかといふに、由來歴代の文相なるものは、例へば素人大工の棟梁の様なもので、其多くは政黨出身者で、風の吹きまはして、所謂伴食大臣にありつた連中、教育の何たるかは御存知なく、文部大臣となつた關係上、教育を云々するといふ有様で、世間でいらく〜教

育の事をやかましく云ふので、一つ我こそはと、教育職工や教育難夫などを驅り集めて、くだらぬ圖面を引いたり、つまらぬ遺線設計をしたりするが、それが仮りに旨く出来た處で何の役にもたぬ事は勿論で、大抵は其工事に着手もしないうちに、内閣が替り相變らず替りばひのしない伴食大臣素人棟梁が登場するといふ状態であつて、現狀を繰返す限りに於ては、百年河清を待つが如きものである。

こゝに云ふ職工難夫を、一寸説明しておくが、現在世界の學校でやつて居る仕事を、教育と心得て居る教授とか博士とかを教育職工といひ、同様の官吏を教育難夫といつたのである。

現在世界の學校でやつて居る仕事は教育ではなく、知識技能を授ける所謂教授とか傳授とでも云ふべきもので、品性を陶冶するとか、眞人間を養成するとか云ふべき眞の教育ではないのである。扱て然らば教育とは如何にすべきもので、其制度はどうか改革しなければならぬか、記者は既に今日ある事は、

一十年前に豫想して、爾來今日迄實驗し研究しに纏めて發表し、知己を千載に待つ積りで居つたので、今更繰返したくはないが、國家の大問題なるが故に、

こゝに之を略述して、識者の參考に資して置うと思ふ其科學的説明は紙面なきを以て之を略し、其實際について之を語るが、由來教育なるものは、立派な人を、將た國民を、養成するといふ一種の

藝術とも見べきものであつて、同時に教育家は一種の藝術家ともいはるゝのである。而して藝術家は其作品に對して、絶對に責任を負ふ事は云ふ迄も責ない事である。藝術品ならぬ我々の日用品でさへ供給者は必ず需用者に對して責任を負ふ事は申す迄もない次第である。それにも關らず今日の所謂教育なるものは、需要者たる一家なり國家なり對して、十分の責任を負ふて居ない。又之を負はんと欲しても、負ふ事の出來得ない制度になつて居るのである。今日のつて居るのには、縦横の作り上げるのには、縦横の制肘壓迫下に余儀なく置かれてある頗る

權威なき、數人乃至數十人の子にかけられなればならぬ組織になつて居るが故に、もとより立派な作品が出來やう管がなく、其責任の歸結は、此等多數の無力者の共同責任となり、共同責任は結局、無責任となり、こゝに教育の不徹底といふ現象

があらはれ、憂ふべき現狀を呈するに至つたのである。記者は教育制度改革の關鍵は實にこゝにあるのであると斷言するを憚らない。而して其關

鍵を如何に開くべきかといふに、仮りに小學校について之を云はんに、全國小學校の児童數は、一千二百二十萬二千二百人、教員數は二十三萬四千七百九十九人であるから、一教員の受持平均數は、約四十三人

謹賀新年
昭和九年一月一日
在十勝實習場

杉田本宅留守居 甲斐根 丑太郎

大内 民惠
大内 一
大内 二
大内 三
大内 四
大内 五
大内 六
大内 七
大内 八
大内 九
大内 十
大内 十一
大内 十二
大内 十三
大内 十四
大内 十五
大内 十六
大内 十七
大内 十八
大内 十九
大内 二十

記者の主張では、國家は一人の児童の、入學から卒業迄は勿論、兩者が此世にある限り生涯を通じて、其教育指導の

全責任を任せ、同時に其全責任を負はすのである。今小學校を八ヶ年として、之を其教員が三回繰返して二十四ヶ年後は（二十五歳以上で就任し五十歳前後と）恩給生活を送らする

本紙發行は内一家の事業にして、其の社説は三對する遺言を養ふるものなり。

本紙定價 一月一元
發行所 内郷村報社
編輯者 大内民惠
印刷所 株式會社 平活版

尚記者は師範、中等、専門諸校大學等の教育に就いても

擔主主義、絕對主義、責任分

單立主義、絕對主義、責任分

の擧筆を予し、たるを諷刺し

て撰筆する。

向本紙は待て五百枚を増刷し

文部大臣を始め教育関係方面

に贈呈するものとす。

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内 民 著

服部 宇之吉

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體し

て、學理と實際と、歴史と實驗とを

ら新に大内案九主義を提唱す。天下

知名の士の賛同校學に達せらる。さ

れど未だ一人の抗議者も現はれず。

味仕、不思議感激打打申候云々。

何れも好成绩を挙げたる爲

漸次全山に普及し採炭能率

の向上に資する事となつた

又氏は綴坑温泉膠結法と

告ぐるに至り、舊臘金坂停

留場前に寫眞の如き醫院を

新築して移轉した。治療室

技工室等は當地方稀に見る

金壹圓 小松定治郎

金壹圓 大越勝之助

金貳拾圓 白木 内郷各學校職員一同

金參圓 川俣 大野 運吉

東久邇宮殿下を 迎へ奉りて

馨炭礦業所 事務長 濱崎 善三郎

第二師團長 東久邇宮殿

下には産業御獎勵の御思召

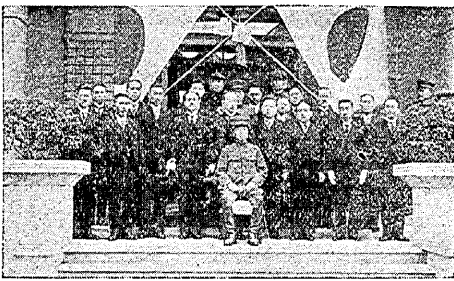
により昭和八年十二月二十

一日弊社へ台臨あらせられ

二時間餘も御親しく御視察

を添うせしことは弊社空前

の光榮であつて淺野社長初



淺野翁記念館に於ける宮殿下 淺野翁記念館事務長濱崎善三郎

め各重役山元四千の従業員

はもとより一萬の家族の者

まで悉く皆な感激の極致に

達し全戸國旗を掲げて奉祝

の意を表し恐懼のうちにも

心から喜んで御迎へ申し上げ

た次第であります。

宮殿下の台臨に就きまし

ては業務を休まぬやうに精

勵せよと特に御示達があり

ましたので御入坑遊ばさる

る綴坑さへも平常通り作業

致しました。たゞ此の光榮

を勞務者達にも分ちたいと



淺野總社社長 野一 氏

考へまして全山から五十名

の勞務者總代を選び奉迎送

に參加致せました。

御成りの當日は天氣殊に

晴朗にして天地も喜び御迎

へするが如く綴坑前には岡

部取締役菅原所長と私が御



前專務取締役 川益 氏

待ち申上げ記念館前には主

任以上礦業所職員勞務者總

代、内郷村傷病兵遺族在郷

軍人、婦人會員其他全山よ

り集まつた家族達が廣場や

沿道をうづめてをりました

我國教育學界の權威

前京大總長小西直博士

書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地

ノ御試練ニ基ク眞摯愛國ノ大精神ヲ拜

味仕、不思議感激打打申候云々。

發行所 日本評論社

東京丸の内昭和ビル

取次所 内郷村報社

宮殿下には午後一時半平

驛御着と同時に自動車に召

され御附武官副官を隨へさ

せられ長谷部少將縣内務部

長警察部長等御同伴申し上げ

綴坑前に御下車直に岡部取

締役の御先導にて御徒歩跨

線橋を渡らせられ記念館前

にて整列の十六名の傷病兵

遺族に一々御下問あり慰問

の御言葉を賜ひ一同感涙に

むせんでをりました。



岡部取締役 正樹 氏

岡部取締役より淺野社長親

しく御迎へ相叶はざる事情

を言上御詫申上げ尙此度の

御成りは全山空前の光榮で

あること炭礦事情は礦業所

長より御説明申上ぐること

を言上致しましたところ

宮殿下には近くよれ椅子

にかけてゆつくり話せなど

有難き御言葉を賜ひました

菅原所長から御説明申上げ

ましたときは一々御うなづ

き被遊種々御下問あり鐵區

圖で御目を通し遊ばさ

れました。

記念館御出ましの時は故

淺野社長の銅像の前に進ま

せられ大廣間を通御表々關

で主任以上十六名は 宮殿



菅原礦業所 治萬 氏

下と記念御撮影の光榮を擔

ひました。

それより諸員奉送裡に再

び御徒歩綴坑前に成らせら

れ自動車にて綴坑に向はせ

られました。綴坑宅前廣場

では綴坑、工作課従業員、

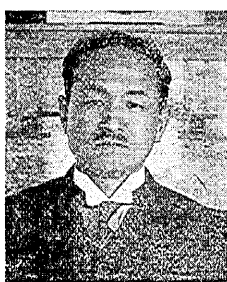
社宅の家族等多數奉迎の裡

に菅原所長御先導綴坑事務

所樓上に御休憩綴坑に關

する御説明を聴し召された

後ナツバ色の作業服に御召



事務長 濱崎 善三 氏

替へ、ヘッドランプを召さ

れ他の人と同じく御氣輕に

白タオルを御首に御巻き遊

ばされた御姿は尊くも畏れ

多い極みと拜しました。私

共は此の尊き御姿を是非記

念に御撮影願ひ度い心はや

まゝなれど重ねて御願す

るは恐れ多しと御遠慮申上

げて居りますと 宮殿下に

は私共のさゝやきをチラと

御耳にせられ「いやかまは

ん是こそよい記念撮つて

をけ」との御言葉をいたゞ

いたときは只々有難き嬉し

さがこみ上げてくるを禁ず

ることが出来ませんでした

綴坑内には菅原所長湊坑

長御案内申し上げ御附武官、

副官、内務警察兩部長、長

谷部少將等御同伴申し上げ御入

坑遊ばされました。ケージ

に御乗り遊ばし今や御下降

の刹那には餘り勿體なくて

只もう御無事御出坑遊ばさ

るることのみ神かけて御祈

り申上げました。

坑内は約二十分間坪下坑

道二半上りA切羽にてはジ

ヤックハンマー、コルピ

ツクの操業状態B切羽にて

はラジャックスの作業を御

覽に入れ、次で捲場それか

ら二御馬の背を御説明申上

げました。ケージの捲上が

る御途中 宮殿下には「コ

レデいよ、娑婆に出られ

るのか」とユーモアたつぷ

りの御言葉さへ仰せられた

と承ります。

坑外に立たせられた直後

以下四面につゞく

内郷新聞

法人則
從順ナ

育の事をやかましく云ふの
職工や教育難夫などを驅
り集めて、くだらぬ圖

こを略述して、識者
の参考に資して置うと思ふ
其科學的説明は紙面なきを
以て之を略し、其實際につ

があらはれ、憂ふべき現狀
を呈するに至つたのである
記者は教育制度改革の關鍵
は實にここに在るのである

三面よりつゞく

記念御撮影を願ひたる上菅原所長より「コイルカッターベルトコムペヤー」の操作を御説明申し上げられより選炭場に成らせられ選炭作業、水洗作業を親しく御視察下さいました。「石炭は掘り出せばすぐ金になるかと思つたらなか／＼」と御述懐遊ばされ、「又素晴らしい男性的作業だ採炭夫の仕事は鑛業界

の最前線にある尊い職務である大いに精勵せよ」との有難き御激励の御言葉まで賜りました。

再び事務所に於ける御休憩中は種々御下問等あり御談笑遊ばされ差上げた茶菓果物等御召上りいたゞき御機嫌殊にうるはしく御豫定の御時刻より一時間ほど長く弊社に御足を駐めさせ給ひしことは真に言葉に絶する光榮であります。

濱崎事務長の苦心と感想

記者は所謂新聞記者として宮殿下を平穩にお迎へ申上げ、淡野記念館、瀨坑、白水阿彌陀堂、御成り遊ばされた御尊容を、始終御側近く拜するの光榮に浴し、御無事御歸還後、此度の途道の準備其他第一線に立つて、心身を勞せられた、濱崎事務局長と會見し、其の苦心と感想を叩いた。

○此度、宮殿下の御成に就ては、なほは随分御骨折りでしたらうなや、東京本社も山元も皆な協力一致無事此の大役を果すことになり、日夜心を痛めました。何れいづれも菅原所長が一番心を痛められたので、責任者でなかつたら、瀨坑坑長も容易でなかつたら、入坑遊ばすので、私なごはたゞ下働きです。

○人並に出来ぬ一人の力では、どうも力も出ないが、いかに心も力を協せて働かんや!

○特別の御感想は、

△人並に出来ぬ一人の力では、どうも力も出ないが、いかに心も力を協せて働かんや!

△無事奉迎送が済んでよかつたこと、今後吾等全従業員は一層総親和総努力して、宮殿下

の御仁慈に奉答し此の光榮を萬一にも無にしてはならぬといふ此の三つです。

○宮殿下は警備隊で大總御満足を遊ばしたやうに承りましたが、私共はたゞ萬一にもあやまち無きを期したのみでしたが、幸にも光榮に終始しました。これは皆、皇の知られざる多くの人の御厚志御注意御指圖の賜と感謝してをります。

○それはごん人々々々、

△第二師團司令部の山崎定義少將閣下が今夏御視察に見えられ私には記念館と瀨坑を御案内し瀨坑では入坑された御執成の御座り、山崎閣下の御執成の御座り、はなにかと御執成をなす、私としては記念御撮影に就ては、多々な御心配を煩はしました。

△知事さん初め縣廳の方々が種々御心配下さいました、平野町長さん警察署長さん新聞記者諸氏にもいろいろ、へていたゞきました。

△丁度十二月十七日十八日山元監督の爲重役の渡邊得内山吉五郎兩氏が東京から見えて居られました、此の御二人からは、歓迎送諸般、微細な点まで

内郷村報の

六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協力を計り、總親和総努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事実行を表彰し、且之を奨勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

鮮満視察記

内郷高坂校長 佐藤



佐藤校長

私は昨秋福島縣教育會派遣五名の鮮満視察員の一人となつて二十三日間朝鮮滿洲を視て來ました。紙幅に制限があるので、ほんの旅行の道順位の所しか書けませんが、一行は九月二十日東京から落ちて、視察の途に上つた。東京から下關迄は鐵路一晝夜を要したが、下關から朝鮮釜山港迄は汽船で僅に八時間

の古語通りの寂寥まではあるが、新羅文の精華と豪奢を誇つた史蹟が散在し、我奈良朝文化の淵源を推究することが出来る。引返し、大連を視察した。此地は朝鮮第一の商業都市人口約十萬内地人三萬近く居る。次に北して京城を視察した。京城は元朝國の首都で季朝歴代王居の地、今朝鮮總督府の所在地として政治經濟其他主なる機關備はり、そして山河襟帶の地勢恰も内地の京都に似た景勝要害の地である。人口三十四萬内地人は約十萬居る。次に平壤を視察した。此地は往古箕子及高麗の都した朝鮮最古の都府、又北朝鮮第一の物資の集散地で人口十四萬内地人約二萬居る。更に北して鴨綠江の夜景を眺め、大鐵橋を渡り新滿洲國に入つた。第一に奉天を視察した。奉天は清朝太祖太宗の奠都の地、古來滿洲に於ける政治經濟商業工業等の中心都市で見るべき物類が多い。人口四十萬内地人三萬近く居る。日露の戦役近くは滿洲事變の震源地柳條湖北大營等を視察した。更に奉天の東撫順坑地を視察した。規模の大廣大なる南北一里東西四里に亘る炭層は厚さ薄平均で七八十尺厚き所で四百二十尺平均百三十五尺埋藏量は十億噸と稱せらる。これは驚いた。更に北進元の長春今の新滿洲の首都新京を視察した。今

や新設首府として將來二百萬の大都市計劃のもとに道路の新設各種の建築工事盛に行はれて居る。丁度震災後の東京の工事を見る様である。附近里餘に在る南嶺及寛城子の滿洲事變戰蹟を尋ね戦死者の靈を弔つた。新京から滿鐵を離れ東支鐵道に乗つてハルビンに行つた。此地は北滿唯一の商工業中心市場で露人經營の都市で歐洲式の市街と稱せらる。人口三十二萬内地人八萬内地人五萬居る。さうである。それから引返し、新京奉天を通り鞍山の製造所熊岳城の農事試驗場を視て更に南下大連旅順を視察した。大連は關東洲滿洲の大支關極東貿易港の一樞腕である。共に陸路南滿洲鐵道の起源地として海陸交通の中樞を占め活躍して居る。人口二十九萬内地人約十萬居る。さうである。大連から汽車で一時間餘で日清日露の攻防戦に凄惨を極めた旅順に行き、三〇三高地東嶺塔に英靈を旅順、二〇三高地東嶺冠山北砲壘水師營等の戰跡や舊蹟を探つて大連に引返し、十月七日此地を最終として乗船歸路に就いた。三晝夜を要して神戸に上陸し、十月十一日歸校した。鐵路五千料海路千二百料日敷二十二日随分忙し旅行であつた。滿洲は日本の生命線なりといふが、這次の視察で真に其實感を得た。日清日露の戦役近くは滿洲事變に十萬の生靈と二十億の國幣を犠牲にして戦つた國防上より眺めても、滿洲の開発利權確保の爲に十六億の巨資を投し事業を經營しつゝあるの實狀を見ても、現に鮮人を合して百二十萬の日本人が死戦を越えて活躍の實狀を見ても、更に七萬八千方里の廣漠な然かも無限の天産資源に富める實狀を見て、翻つて土地狭少人口過剰天産資源に貧弱なる我日本の國狀を思ふ時、國際聯盟を離脱して世界孤立の苦境に陥りて迄も滿洲國の獨立を強固ならしめ真に日滿提携親睦助成の要ありを深く實感させられた。

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社説は本紙に對する選言を兼ねるものなり。

本紙定價 一紙五錢 一月一元 半年六元 一年十二元

發行所 内郷村報社 本社 内郷村報社

印刷所 大内民惠 株式會社 平活版